

資料について（[-1], [0], [4a] の3個は集会の後で追加した。2017/09/08 に付記）

以下のリストの中の [1], [3] を資料として配布する予定

[3] は数学教育の内容に関わるペーパーだが、それを用意した意図を話の中で説明したい。

[4] から [9] までは, [3] に関連が深い作品のリスト。

[10] は今回のテーマに関係が深い OECD PISA の批判

今回、私のサイト「小島 順の数学教室」に「京都講演資料集」というフォルダを置き、この10個のファイルをすべてアップロードした。URL（置き場所）は <http://math.oshirase.com> です。

このサイトは実質上今日が初公開、他にはまだ何もない。息子の小島 浩の世話になった。お世話といえば、[1] は何森 仁さんが資料用にアレンジし、印刷と運搬をすべて（ご夫妻で）やってくれた。連載中にも散々迷惑をかけた。

[-1] 近数協記念講演要項2.docx

「カタカナ語教育学と数学教育の現況」（講演要旨）、2017/08/26

[0] 京都講演補足メモ.pdf

京都講演補足メモ、2017/08/26（この文章のこと）

[1] カタカナ語講演資料.pdf

「カタカナ語教育学と数学教育の現況」の資料、2017/08/26 同志社中学校

[2] カタカナ語教育学(2)書き残し3.pdf

「カタ/09/24 カナ語教育学と文科省支配(2)」の書き残し

[3] 京都講演数学.pdf

京都講演 数学についての資料、2017/08/26

[4] 長さ時間速度対数目盛 3.pdf

量分数をめぐる計算 — 時間・距離・速度を例として —, 2017/03/11

[4a] 計算尺的な掛け算と割り算.pdf

比・掛け算・割り算の計算尺的表示 (2016/11/12)

[5] 量分数とは何か3.pdf

時間・速度・距離の計算のまとめ 2016/09/17 東数協・月例研（小学校部会）

[6] 速度量分数時間速度対 2.pdf

速度、量分数、時間-速度対、2012/07/14、白楽サークル@神奈川大学

[7] 比率の和確定版.pdf

比率の和、”比率と総数の対”の和、2015/12/26、白楽サークル@神奈川大学

[8] 二つの物差しによる加減6.pdf

正負の数の加減 2015/08/11、数教協全国中学校研究集会@明星学園

（まぼろしのレポート）

[9] 複式簿記 5.pdf

会計処理に現れる正負の数, 2015/10/31, 11/28(大修正), 白楽サークル@神奈川大学

[10] PISAatWakou 2.pdf

PISA の問題を検討する 2011/09/24 鶴川 (和光大学)

[5] と [4] は対照的。[5]は”面積図”が基本で、距離の直線が絶えず伸縮することで、時間あるいは速度の直線との比例を示している。[4]は対数目盛で、伸縮がなく平行にずれるだけで比例にを表現する。

[6]はGeoGebra上の動的な構成の一例を示している。最後の「まとめ・補足・注釈など」という2ページ分が今回の議論と関連する。OECD-PISAの「数学化サイクル」と「数教協」式「問題解決の図式」を批判した。「問題解決」の過程で子供の中の数学を育てるのではなく、固定されたままの数学を適用するだけ、という点において「数教協」は文科省の「指導要領」と近い場所にいる。

[7]は野崎昭弘さんの「割合分数の合算」（「数学教室」2017年3月号）に関連した話題を含む。問題点を指摘している。[6]とともに、井上正允さんの論考に触発されて書いたもの。

[8]は「まぼろし」のレポートで、実際には発表の機会がなかった。[3]の加減の部分を「二本の物差し」で扱った。

[9]は”一つの直線上の増減”でなく、二つの直線（二つの量）の間の関連に正負の数を使う（例えば、現金と負債）課題を扱っている。負債はキャッシュフロー計算書では正の量であり、損益計算書では負の量となる。これは学校で正負の数の導入に使える材料ではない。そして、重要な探求課題（総合科目的な）である。

[10]教育の新自由主義的グローバル化の推進勢力であるOECD-PISAへの対応、数学的デタラメぶりを告発するのは我々の義務である。全国研究会議でゲリラ的に配布したものをもとにしている。

教育学の論考（私がとくに影響を受けたもの）

22

(i) 松下良平: 「学び」論の抗争 — 類型と課題 —

教育学年報 10, 教育学の最前線, 2004年, pp. 375 - 393

(ii) 松下良平: リキッド・モダンな社会における教育の迷走

「現代思想」2009年4月号 vol 47-4 (青土社), pp. 114 - 142

(iii) 松下良平: 楽しい授業・学校論の系譜学 — 子ども中心主義的教育理念のアイロニー —

森田尚人・伸子・今井康雄編著: 教育と政治/戦後教育史を読みなおす (勁草書房, 2003年), 第5章, pp. 142 - 166), 別に, 広田照幸監修: リーディングス | 日本の教育と社会 1, 「学力問題・ゆとり教育」 (日本図書センター, 2006年) の pp.313 - 330 にも所収

(iv) 佐藤学: 学びの快樂 — ダイアログへ — (世織書房, 1999年) 特に

pp. 261 - 277 「数学教育の危機とカリキュラム」,

pp. 037 - 079 「学びの対話的実践へ」 ここから引用した文章が [2] にある。

(v) 刈谷剛彦: 「教育改革の幻想」 (ちくま新書 329, 筑摩書房, 2002年) 特に

第4章: 「子ども中心主義教育の幻惑」

松下良平氏の (ii) は中曽根臨教審の個性化自由化路線以来、混乱していた私の頭の中を整理するのに役立った。恩義を感じている。(iii) は遠山・板倉批判が主題。こういう問題提起を一切無視、というだけでよいのだろうか?

(v) はカリフォルニア州の子供中心主義的教育改革 (教育の破壊) の実態を伝えている。私は昔「数学教室」のこ・そ・あ・どに、それへの抵抗 “Math War” について投稿したことがある